



「教え魔」との交流

西松 遙
日本航空 取締役社長

航空機購入を主たる業務とする調達部担当でしたので、大変親しくさせていただきました。同氏はB777プロジェクトの責任者として力量を発揮され、共同製作にあたった日本の重工業メーカーさんからの評価も高く、このプロジェクトによって、しばらくエアバス社に差を詰められていたボーイング社を見事に立ち直らせました。

彼の面白さは仕事だけではなく、どこか技術屋的な凝り性の持ち主で、それが端的に表れているのが「ゴルフ」です。ほとんどパープレー近辺で回る、いわゆる「アスリートゴルファー」ですが、自らの技術の向上に努めるだけでなく、「教え魔」です。一緒にラウンドすると、スタンスからグリップまで、挙げ句の果てはバンカーでの向き、フェースの開き方まで、徹底してアドバイスしてくれます。おかげでスコアはめるめるになります。不思議と後味の良いラウンドだったという

印象です。ムラーリ氏は現在フォード社で大変苦勞されていますが、私は、その底抜けに明るい性格と技術重視の凝り性なところが、フォード社を再生させるのではないかと思います。この写真を見て、あらためて、同氏と一緒にラウンドして、徹底的に技術チェックを受け、スコアはだめだけれど後味の良い一日を過ごしたいなど思った次第です。ムラーリさん頑張ってください。



つい最近の話ですので、「思い出写真館」にはふさわしくないかもしれませんが、印象深い方なので、あえて紹介させていただきます。それは、現フォードCEOの

アララン・ムラーリ氏です。ムラーリ氏は3年前までは何と自動車ではなく航空機メーカーのボーイング社の民間航空機部門のトップでした。私は執行役員、取締役の頃、

彼の面白さは仕事だけではなく、どこか技術屋的な凝り性の持ち主で、それが端的に表れているのが「ゴルフ」です。ほとんどパープレー近辺で回る、いわゆる「アスリートゴルファー」ですが、自らの技術の向上に努めるだけでなく、「教え魔」です。

